忠義太平記

十一

選3
1479
11

内閣文庫

忠義士事記巻之第十一

同報

寺沢市右衛門士の部に入る事

岩沢の乃湯藥師のこと

大川八郎かうけうこと

盟約士生害とゝゞる事

國分右馬藥礼儀式のこと

原傳源右大法こと

内閣 13
番
巻

宗教が妻雪の下にすむ事
雪の下の名ゐをかけあるる事
東波島が母子ともに不生寿なる事
初子磯松才知多数内なる事
鬼掛の屋敷磯松をまち給ふ事
磯松をさそひて切腹のる事

忠義孝子大全巻之十一
右沢寺鳥羽の事
匹夫をもつて海ざるべからざるとつくり。さ迯び寺沢寺
鳥羽をの弟兄ぐるうちとゆくと。一点の忠義をくんで。一
陽必死のうびよりて。右辰義士のかまをとり。天下万人の
同をおどろかす。これ右辰の義。いまをつくりつくせり。つて
匹夫よりどこれぞ海こしの大丈夫。右今はまをかるこころ
なりぞ。ずにもあるあ弟かぐうを。義忠を絶ぜんこあ。四海の
中のようつりぬ。ばこびの来うちゆと。屋のうへよりとびあ
ぐり。りを場かどをびこて。かせいとるものとあるや又門
より海とこてぬげ出るものをりやと。家見しして居うり
しぐ。一味のとをぐり。尾をもどのとうちあせ。お弟の角をふこ

そこ〳〵その名をとゝくるりをぺそぐ後孫〳〵りこびありしが
うまつさわまりて世せこぞわやまつてこうがひを大石ゆて
うちをれ。をを逆世よ面うせびく移歩うゆひぐこかりしりだ尾
むどのくらびをんこでけ。孫こぶこかぐりゆく。まれ今あや
まりてこうれゆひをうちをんど。を逆自由ゆずとゝへどを
ゆをこをを〜わるうへ。ねゆどのこひまをゆ。さうぐをのく
れいと面をたまつて。自害いつて〜ふうんく。ゝこぐこをわこて今
いかゝよとんこるを。中ひく脇をこぐわこいうゆるたてここ
ぞや。をこゆ一人ゝこぐこちて。行の後りあるべこぐこ。こゆをのく
一同よ。をこゆんで切後せんゆづ世美拵ゆまでのゆをよと
こゆぐふこれをいこあゆぐて。弱ふのせて。孫須中をのく
ゆ抱〜。ふゆをへりとりこて丹下どのく墳墓ゆて。ゆひ

こ助こゝひこうて。亡者ゝ孫ひをを生〜ふの別ゆあり
て。盥絢の庄中へを。こゆく今ちをのゆ絢せうゆべこよ
いひ〜ゆべ。四十餘人のとゝぐこれちとくだをかをてち沢
どのこぐぞびふけゆこそ。ひをのをゆうぐゆりて居こり
ゆ。ゆどゆく重病をうけ。分んをひ〜ゆべ。稚く療法を
ゆこへ。こゆぐ名醫のをつゆせるこれどを宝業ゆぐりゆつ
てゆどゆくゆゆゆくゆりゆるゆ。ひをの時家ゆりゆ。沢の左
陽よおこりひこをゆぞ葬ゆをけるゆゆをゆうゆち沢。日
法の素懐を一時よこげ。同ゆく命をおこ〜ゆゆ。盥絢の
ゝをこゆ〜と。ゝをこに一ゆよい義ら逆ど。茂沢のおこゆり。世
よ名をゆこれゆる事をを。こゆ人ゆゝぐをゆ〜〜りゆくて
ゆこゆ〜こ中に。をのををこれゆ。ゆくこまの年たちゝ逆べ。

そうのうしゝをもつ深やうゆゑつゝこうしたぐすりを買よるゝまくらわまど。盥紙のものだへ用ごとふその用をうぐりとろゝ。おりひかけてまちにうりくて睦月をゆめとられたるもやふくうぐひとのしゝあをゝろく。法むねとさへづるもゝまよがぐいをとくむるゆやとのちはせの事をのゝ。わけれんやようけて。絵を備ゝ会仏をとゝめへ。むこゝとゝ来来といのりうるゝこゝろよ。業のごとく。生害をべゝをふゝぐまりしうべ。盥紙のものをへゝその用をゝぐゝしうゝる。大川八郎カ孫よちうづゝゝるゆてを。きゝ辺のゆるゆへゝ為年の出身ゝしてゝう稲て必死のうずゝ入りゝはゝびゝ切板よりおよぶ事。毫根よりおよび事よひゝ。さゝめて出母来出兄弟をひゝんとゝへゝ。カ孫ゝゝいてゝれゝゝゝ月ふ宵ふ辺へゝたゝうゝるの赤よ生ゝ。

はうび四位のうべよへり。そのはぶを鍋ぜーと。生あの
大音。かふ事ゝこれふたうんそ色ーゞ母へ上ーゞこゝゆへ事
どゝゝ。母ゝ一ゝよはり。うーゞうふくに。母ゞかげうん事のゝ。ぐ
るーくはゝ。かゝゞどゝうーくとかゞーゝれべうーのふたけゝ第
ゝ。力孫ゞんの母をうつーゞうへでーやりうんゝたゞうくかゝ
ゞゝ。ゝへゞふゝ。ゞゝの母ゝをはゞゝとゝゝかつゞかげゝうかゝ
ーゝゝあひかんゞしどうゝゝゝゝゝゝれゞーふはうゝせゝへ
ゝゝの母ゝへゞーうふうゞけはべー。ゝはゝとゞけゝとゝ。
ゝゝうーみゝりゞーゝ。ゝ中のゝゝはゝはゝゝゝゝへ
とゝへゞ力孫ゝうゝひゝゝゝのゝをひゝゞゝゞけゝゝ。う
かるゝゝゝゝゝあゞるゝゝを。一せかうゞゝ春ゞはゝ。一樹のう
げふゝゝゞう。一河のかゞゝゝゝゝゝゝゝこれ化生の

繼とゝゝそうけゝゝゝゝりはへ。父母ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝへ。
り一方一四位のゝゝのゝ。ゝゝ。ゝのゞゝゝゝゝれくゝみ
ふかゝそへゝのゝゝのゞゝゝゝゝゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゞゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝそゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふゝゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よむせびたもだらく紙をもぢりくるぐ。あまりくるぐさらや
ありくんぐさ神で髪角をいまびやぐてきて入りしくべ。
その発ふわりくる伝結。ふかくかぐをかぐくり

盟約の士害をこぐる事

くて時刻ふかりしくべ。庭上のうり屋の内よ。盟約のをを
ぐ。くぐく列座せりをのくくちぐふいかうくびうへ
ふへをくふ神二りあくざの髪化のたくををくと。生害の
場よ。てみこをもくて。うへあくざの赤縄を。給よ
してこれをくくその死ぐいをそのまくゆてとぐふこれをと
つてくみをよりちを。ゆくを紋のまくれ中へくと
ぐくりりあ中ををちぐゆ。盟約のとをぐ日十修人。
ひまくふ切腹をいぐをくぐんくあくをかく

内志義の居へ。於今ゆをあるべくをどくくをかくこれをうんじ
ぐりいかくへより。和漢の名臣世よ名をのこをるをのぐのうだ
おりとくへを今ふおわそへくをとるふものかわ。中孔親
ふかうりせくられ亡義丹下どの。鼠下れくくををりく
ぐくぐうぐ義士一列のの右烈をかくやくをんかんぐをの徒を
わくぐそのの雄器をちくをくぐん。角角のをんべ義をれお
くくかまぐ。その死をふくくをの生をしまびくいふくくかぐり
といへを世ふ名をちくふ内くこくかくんべ。彰紀ぐ七百をくを生て
かふの義をうる。義ふの紀命へ不幸かりくいへを。亜聖の
のくくふ義をくやをりぐ不義の生へ欲をくくくくよりと
いくんや功かり名をくるふおわくをわぐされば忠ものの和為。び
くひの喪をくかりて。修俗三百修人をあつめ。仏事供養

くのごとくふいとかく。位牌いとつかへて。四十七人とまり
ち。法名をとりもちて。此れ事縁を知りて。自然の墓よお
まへど。一郭をうゑへらく。墓を樹田のうこと
親くうる惠風。往昔のゆめをうゑ。おのづから霜月の
の雲をうこと。月常住のとり。火をかく。善法の雲
巻猿。ことをべてくびとをつめで。雅集のたりとつる称
感涙をかく。嘆息のこと。こにこそりあまり感よこと
ざるこのハ。ゆゑにがをとけづりとりて。懐よりてこの所を
わり。墓おのちさこへつんで一堆の山ちかし。手向のあい
かがをて数条の川とあられて。法仏施僧のいとなこ。善つし
墓つくるる色ハ。法仏をおのづから感光をまして。此会発よ
つかり。歓喜感歓のこ。をとそへ。無量をあげられ。此神

をあらう色出て。法会の庭よ手伝ひ。僧侶のあとをの
ぐ。仏世をもつふらんとぞおがくる。一雅の香を拾ずと
て。丹心ゆこくわるこさへ。会雅ちんぞわやまん。一列に雅也
見こくくだぐちふ浄ちのわけがのよいうりあぐ。猶也
のうづかとなれて。ちこやうふ。妻書を若の世界よいう
上品蓮華よ発せんこと。ちんぞうこがところ。ちんと。仏
色をあらふ色をて。おりぐうりる事たり

宗祇ど妻宮九下に住事

代々豊約のとをぐ九。みどとしぴせよいこのこりてい。ま
ぐ十餘人ありその名をたまこうづめ色ハ。良ど次男子
代九。三男三郎丸。庁山源七郎ぐちやく。庁山源六郎
男源ち助。弓歌垣体八。宮田修理

弟つぐ次男。市田長し助。宗兵衛家つぐ一子。宗兵衛三男
冨林秋蔵つぐ一子。冨林庄三郎。南沢勇蔵つぐ子。南沢小
次郎。岩波村次ぐ一子。岩波十三郎。同じく次男。岩波村
次郎。村木益平ぐ一男。村木地次郎。同じく次男。村木益
次郎。和地茅助ぐ一子。和地太く助。宮田奥右衛つぐ一子。宮
田奥十郎。松川喜平次ぐ二男。松川狭間右衛つぐ一子。
ぐ一子。宮田光十郎。八十村治右衛つぐ一男。八十村友丸。同じく
次男助丸。ひとをぐ十雑人なり。これらいろく。喜治郎
おとむらつぐ。その四いとけなきさんべどもへ十四さいよ
りぶまでへその母これをあづかりるされば宗兵衛右衛つぐ一子
兼次郎といひるへ宗兵ぐうごろわさうず。雲せし
おりひへのちうふ。岩右衛門ゆて。今年又さいるり

ろうぐひ女たぐひとり。兼次郎とりそこでもそざわ右
衛門ありしのちへうこの中にうこ月月をおこれぞとこ
ぢ右衛さいのちうこゆうこ。雲れトさいよこうぐうぐの
うこをゆひわこゆ右衛門ゆ右衛門ありだよ。ぐこまぐちゆのこれ
ちこ。右のぶふゆまちいゆへへこそぬゆのこちして。今を
ひ世れろぐだよりくむべこそこそ。右衛門右具ま
でこ。つりくうりちろゆ。勇命をつかぐまりひふちうち
ゆこん物をこたまこちりこのひべこ。ゆうれへこわうぐ
まバ。鄭て元をべこわりこ右衛門。女をこ右衛門ちひうひ
右衛門へうこいひ。右衛門ちを右衛門ちをやぐて
その里の代官右衛門へうつこへ右衛門。その女。後世ゆひぐ
こうへ右衛門。十四さいよ右衛門。女こいよ右衛門

中ちぶくく書育とべ　ありさうなもてで若とのあ
ふ沙弟ゞ母とす孫さぶうへ人ことふ。里中のこのたと
して書育といふ沙りぶ。ゆとくおりゆきとぶひとう
ゆるところふ。二三日をとぎてのち。の女若とゞりとれ者り。
うるあてとを通く二人とぶさこの花中きて書育をれ
ト云る事ゞてけゆくぶる。さりなゞ弟べよりく今年
あさへの初ゆ考通べゆきゞ十四よさふよ。おゞびひまでべ十五花
たりをふひて。とあなゞこう事といひそのうへとにとゆう
ゆをりてだちとをとべさ人の。一人ゆてとさりてこ不
ちりちるるるちをぶゆをひさまくさふ弟ゆてひ。それ
よ物の中紙ゆさ。里中のそのくへ沙若弟をうけふこと。
さりとそべりゆくぶ。さりふ。ちりうづりぶ書とこをふこと。

ちのひやうふひところとぞ。さのさひうんとろくおりひさごめ
ひおり。う称てしりそのぬぬぬぬぬされトさるべーとのへべ。名
うさうてひ事ふおぬそるそへとこしとんふうけらくかそう方
あ人ととよだごうさ中しひとそ里中ちれ事ふれべされ
一人ぐうて。雑紙ちうものとかぞのうへさと中のものを
あづうりをさーところよ。ひこころと之のう也べうへいて町中
雑紙よおちひいうあうち事出ふらんと。おりぐてくひぞや
うかうとくさあうかう。おりひさいちあつへべうどもこしさ
づうひーかあとかくく制句とうへーうべ。女かこぐをあげし
さてへさあうに会ぬよ。おりめトされいうやいうふとく
ひう人へひんいうーひとそとう屋ようさうりうるぐ。ぬよへ
て書をさどうぬぐくとをくてめて京ぬ高うう。ぬく。孫

入り居しといぐうさとこてぐされのうこをうこかぐて。さそをくふ
ここかど果紙つこあうさこかのあーど。ぐうこうつのかどちうお
ことう父ごふおれすいつせ。ぬーくもんうとしかうこひ。ぬりあうさ
いりせの中にみとわうこうてこびかへと。祥ゆと仏ゆといのつーにお
こくとりふうるのこうぬちうとおのこうみゆてありしゆへあ道う祥
人ーぬわくおくかりくおれよう。京北どの家督とつぐを
るこうさあうふ。佐まりう弟くーくん家とつとむうあり
うあとぬまのいうこうんるかへべいうぐりうう也ーかんこひ
ことをうこおりひ月日の。うとうけりかぬ。ーのぐんやう
よおりひーよう。かりまりあうこをぬくせいうあるゆへう
わんぬちうう及びぐうまりあ事ぬおり。父ごふちうたのこうあさゆ
ふううのうこりぐふ。うぐうさまうそとつうさそて。里人

のちごろまでうれ月日とおもうんしといふふしてとはそ
しらず矢とりつて名をあらわし。宗盛ゞ書ゐのみれの
ちそ。ぞくへくまそ物りあ者りしぞ。さすがふ仏祢三宝と。
とそそそそさせるへるうう　若ゝのうさ世の中。死ちるいのち
へとまま祢どと父ごの名まてがさん事の。世ふとはそ
くおりよどやよしくそれとちうう。勇若ハ勇士のちち
物うど。冷ハおうとさうしふ祢したとととふ自害して父
宗盛どのくおつまれ祢系世事よゆさてつりちちの
うそかりうへまて父ごにわりせまりせん会れしまへとへば系
盛参用とさはいまざとけまさんふと父よわいせんといふ
うまてさふかよく父ごおりまん。祢系ふちゃんりふとろ
へつまゆうんとのかふうをやくく父ごまわまてへ会れし

ひうんいざらば祢系へちやくつまゆうせのへ参世の系盛れ
くといふけしうるまとわうせ。祢若ととうつまへ。母とその
ところとふちのびやうふ会れしー系次うごてうすとと。一
うまりふさうさとりいりて祢してとうんりとうしろへうと
つうとうしわつまや若のうせよのこして。同じ海てうふうてて
ゆく雪のたれ去とりわ別りるものくゆうりへうんがまそと
うくちうりんのうけうりうるぞやと。世の人うかれどうんどが
ちうごとりよはうずといりのりふうのり
初子磯松丸智勇のる事
せんざんい二系ちりうんだりしく。雪風いうこの中ちりこ系
祢系ふとうるとうへとりこ海てしりうりひしうごてふ豊弥ロ
十郎人のとちうりのりいうさのうちりくうるふたのうち。初子磯松

がわりの面をつくらせてしよそのたのしさぬ
きぬべしいそ松はいかゝ年れさいはりそろぶたて年七さいの姫
ちりをうまくらのをゝぶわぶどりこゝろのこゝろよちろべのくれわり
しらべびりとにわづけをさてにぶまぐさをさらのあつゆへわけ
らをこゝをさりとにをさてつをぐくとをづくをこゝろふ才智利根
あるをこゝ強欲の仇ぐしを史婦ちをふこれとわいしを意地ひ
ざりとふをさてふれぐとくにちりひぶ役のこのよせれしらべ。
ぜくびをふ切腹をもしをとをうをしずうをにさうにべらうずあをる
んよいうだうりうぶげさうをふしまんをわををりづをさうをのくふ
ありぶおりふを細わををべいそ松りよへくをべしと。赤面の男女へ
ちとぐくをくをいひつけをうをしをこゝろの表宮ぶひをこゝろの表宮
ちりんをおこりてうひろへ四巻仇のをとをぐうのをよいそ松と

ゆとりのそこにこのくに居ひらうゝおどりて出のへと。まくこかいひ
事れり。何ぐ夫婦大ふおどろきて。庄屋どのもちまゐりてい。
ふりくゝ。ものゝ事大うか。酒をもちもちぬこのくいうるうきめよ
うわらんどんせめをふ彼の事大うか。いそ松よもうせるべうを
うりうかげくゞきうかうどうれよもうとべうゝずふ彼よいかりへ
どもを。色恨よおくよいぶる事どもをりといそ松よいふくかくしぞ
れとかく髪とゆうせわくうにきふ神ちんどもちくへさたいそ松ふ
ちんよおりひこれいづくうへつうかひぞんぬ事うかとく
いへば夫婦のへこれをとて。和どのこと。年のうちより利根
ありとうて。庄屋どのうちをいうらもれぶぞやうかう
どふ彼後ものくのそなれよりもうよ
きりひかいれくゞそうぐうるぞゝうかへといるまべい

そ松うて。ごまへ彼ゆそ彼ふへどもを。海こしうずふ。又をも
や切後のうゝかのふうけるうり彼へどもをうゝ事ゝ。
たまをもうせ彼ひへわけるまよんりくかくをうをゝうをうを
よ。庄屋どのうりあうを海こゝ。をへうあり彼りゆよへうや
切後ゝうゝぬうをうゝをを同ゞ彼よのう事ゆそぞ彼かう
おうそゆうへいぞうかゞゝへ彼へうぞねゞをうゝゆをゝを
をゞゝくしうり夫婦のへうをうのかれうゝ。今の
うを同をんろうをうをうをうのうゝうり。ぞゝうふをうをゞ
ゆうを彼をいをうくうまをおゆのうりをかりをゞをうへ彼
ゝしう。彼かんうかうをうをうくのうゝをにむせび。彼角を
いりび彼れゝゞうくうをこうらへおゞゝゆうまをるよ。
いまゞ切雅ものをいひをのうへ母をうをのれべ十雅

さいよのうまでぺきあくわづけらとぴうきこれーうぺきの
人へぺ死ーうるをめぐぷきこがへりうるおもひをみ。伝神の法加
獲ぐりとぷ為こづるこことうどうかみ。されどもいそ松へ文
が切後ーー次第。庵どのあそこうさぐけぷてゑさもこに文
がことどりきいひ出ーぷわくーるものをと食せば。おさりかみ
き居へりるがぷわる乗きかくもねちげまりぷあるくあれとと
さへと。ここるかぐきうかぐひぷちのびやうふあきぷそ。どぐう第
きりいぐーぷどもーぷ次のうげふーりぷ山一夜年ーがかど。きあうひ
せーちるーとくんだうけ書ときとちるーこかぷちう一りんどふ
うこうりぷつわふむじおーくなりにうりぷわりき世の中にかのくふ
のふかどぷけかげあるをのふかーぷいまーきづうれさいあそ十三よ
だーよたうぬ月のぷまぐいきけあくこーれどと。勇士の節義